

全身を使って表現することの楽しさや喜びを実感できる児童の育成  
 ～表現運動における多様な動きを引き出し、児童同士で改善する指導の工夫を通して～

【教科・領域】体育・表現運動(5年「お料理しましょ」)

平成30年度 前橋特別研修研究員  
 前橋市立新田小学校 折茂 友子

＜児童の実態＞

- ・体を動かすことを好み、体育の授業に意欲的に取り組む児童が多い。
- ・決まった動きで踊ることはできるが、自分達で動きを考えて表現することは難しい。
- ・自分の能力を高めたり、苦手な動きを克服したりするために必要なことを自分で考えて取り組むことが苦手である。



＜指導上の課題＞

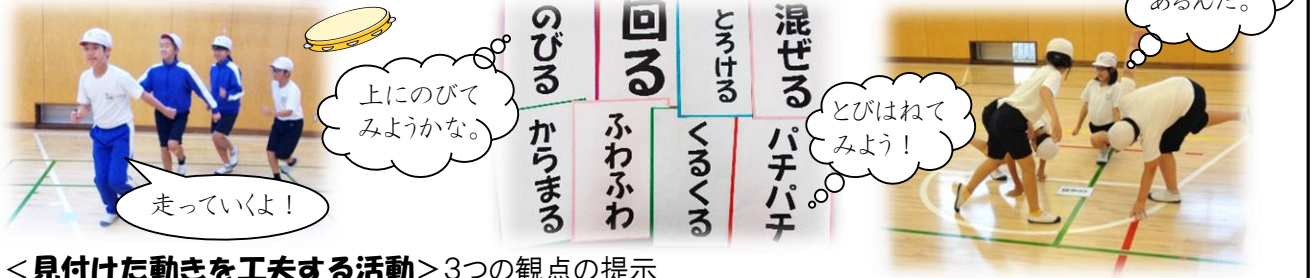
- ・児童の多様な動きを引き出す指導方法。
- ・教え合う場面で、動きのポイントを効果的に交流させること。



【手立て1】動きのレパートリーやバリエーションを増やす活動の設定

＜「リーダーに続け」の活動＞

カードに書いてある言葉を即興的に動きにしたり、リーダーのまねをして動いたりする活動



上にのびてみようかな。

走っていくよ!

とびはねてみよう!

こんな動きもあるんだ。

＜見付けた動きを工夫する活動＞3つの観点の提示

Speed(速さ)のS  
 を使って速く回ってみよう。



Speed(速さ)	Space(空間)	Strong(強さ)
速くーおそく スローモーション 早送り 巻き戻し	広くーせまく 高くー低く 散らばるーまとまる 大きくー小さく	力強くーやさしく はげしくー静かに

Space(空間)のS  
 を使って高くジャンプしてみよう。



【手立て2】アドバイスタイムの工夫

＜3つの観点を基にした交流と動きの改善＞アドバイスカードを基にした動きの確認と改善

Speed(速さ)のS  
 を使って、速く回るので見てね。



ゆっくり動く部分もあると変化が出ていいと思うよ。



この部分がSpeed(速さ)のSかな。



【成果】

- ・観点を意識して動きを変化させることができるようになり、多様な動きにつながった。また、表現することへの恥ずかしさや抵抗感が少なくなり、体全体を使って友達と楽しく体を動かすことができた。
- ・工夫とアドバイスの観点を明確にしたことで、グループ同士で具体的なアドバイスをし合いながら動きを改善することができ、できた喜びにつながった。

【課題】

- ・見付けた動きを工夫する活動において、題材や児童の実態に応じた、より有効な観点を考える必要がある。
- ・アドバイスタイムでは、表したいイメージを共有した上で交流した方が効果的であったので、観点の他に伝え合う情報を吟味する必要がある。